

* 「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(ガラテヤ5 : 16) 御霊によって歩むとは? 先ず、悔い改めてイエス・キリストの名によってバプテスマを受けたもの、すなわち救われた者の中に、御霊はすでに宿っていることを認識したい。(使徒2 : 38 参照) 「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたかたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」(5 : 17) 御霊は神様のみこころを行うように私たちに求めるが、しかし、肉の性質は相変わらず存在し、神様を無視し、自分の利益を求める。主イエスを信じて歩み始めると御霊と肉の葛藤が生じてくる。大伝道者パウロでさえ、大いに悩んだ。(ローマ7 : 15 ~ 25 参照)

* 「肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。」(5 : 19 ~ 20) 肉の行いはサタンの働きによるもので、不品行の行為、唯一まことの神を無視する行為、教会の聖い交わりを阻止する行為、に分類できる。このような思いや行いが自分の中に目立ってきたら要注意である。

* 御霊によって歩むためには私たちは具体的にどうすればよいか。聖いものに自分をささげることである。聖いものとは100パーセント神に向かっているもののことで、みことば、祈り、奉仕である。これらはすべて御霊が導いてくださらなければ真のものとならない。私たちがこれらに没頭している時は御霊に満たされている。自分の時間をどれだけ聖書と祈りと神や教会や人のためにささげているかをチェックしてみよう。時間と同時にその質も問われる。これらのことがすべて含まれているのが礼拝である。特に主の日の礼拝はすべてのプログラムの中に聖霊が働いて大きな感動が呼び起こされる。聖霊の働きを最もはっきりと経験できるのは礼拝の時だと言える。

* 肉の行いと対極にあるのが御霊の実(ガラテヤ5 : 22 ~ 23)で、日常の自分の生活を定期的に振り返ることが大切である。日ごと或いは一週間毎でも、御霊が働いて実ができたか、逆に御霊を悲しませなかったかをチェックしてみよう。日々聖いものによく接し、聖いものに向かって行動するよう、祈りをもって歩みたい。